
Dear

ウーザ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Dear

【Nコード】

N9388Z

【作者名】

ウーザ

【あらすじ】

ある街の ある学校。

その屋上で 青年は 1人の少女と出会う。

少女は この世界は 理不尽と矛盾に満ちていると告げた。

青年は 少女を妄言を理解出来なかったが いつの間にか 2人は 意気投合していた。

遂には 2人で 部活動を立ち上げるのだった。

『地域支援部』という名の。

そこは やがて 仲間達の憩いの場となる。

その部活動から 彼らの物語は 始まった。

注) 別サイトで 書き途中だったものです？

諸事情で ログインできなくなってしまい 移ってきました？
文体を変更？

趣味人ですが どうぞ 宜しく？

人物紹介

—— 玖晞くぎょう 龍冶りゅうじ ——

年齢 17

身長 175?

体重 65?

今作 主人公で『地域支援部』部長。

三年前 通り魔に襲われた時 一緒にいた友人を救おうとして 通り魔を誤って殺害してしまう。

自己防衛として無罪になったものの それが 原因で 両親には 親子の縁を切られてしまった。

その後 町から町へ移り住んでいく中で この煌縁市こっせんの旧商店街に 辿り着く。

そして ジャンク屋を開業し その利益で 高校に通っている。現在 は 二年生。

性格は 冷めていて 素っ気なく 皮肉が目立つ。

反面 困った人を見過ごせないなど 世話焼きな一面もある。そのせいか 支援部の発案者である綴から 部長の座を押し付けられた。また 男だけで群れているときは 総称して『バカルテット』と呼ばれている。

支援部メンバー内では 主にツツコミ担当。

—— 立見たちみ 綴つづり ——

年齢 17

身長 155?

体重 43?

スリーサイズ 82 / 54 / 83

龍治が 偶然 屋上で 出会った少女であり 今作 ヒロインで『地域支援部』の発案者兼副部長。

彼女には 他者の思念に触れて その過去や未来を読み解く能力がある。

そのためか 周囲から奇異の目で見られていて 友人はいない。

父親を早くに亡くしており 数年前までは 母親の立見^{たちみ} 佐鳥^{さとり}との

2人暮らしであった。しかし ある出来事を境に 佐鳥が精神障害を患い 情緒不安定に陥ってからは 1人暮らしをしている。佐鳥

は 精神科医で 療養中。

性格は お喋りで 友好的である。が 能力上なのか 哲学的な物言いが目立ち 何事にも悲観的。

また 一般的な常識に疎く 天然な部分も。

自身を『傍観者』と例えていたが 龍治と出会いをきっかけに 心機一転 部活を始めると言い出した。

一人称は 『僕』であったが 後に 『私』に変える。

好きな場所は 学校屋上の貯水タンク横。

——早麻^{はやま} 芹^{せり}——

年齢 17

身長 160?

体重 47?

スリーサイズ 84 / 57 / 84

今作サブヒロインで 『地域支援部』活動初期メンバー。

三年前 龍治が訪れた（現在も滞在中）煌縁市の商店街で 一番始めに 手を差し伸べてきた少女。

それ以来 龍治とは馬が合い 腐れ縁（？）のような関係である。

幼くして 両親を亡くし まるで疫病神のように 親戚の家をたらい回しにされていた。

拳げ句 最後に保護者となっていた親戚は 勝手に引越し 彼女の前から消えてしまう。

その後は 孤児として彷徨っていたが この煌縁商店街の元商工会会長である早麻 清十郎に拾われ 養子となる。

その後は 家事全般をこなし 妻と死別している清十郎の助けとなっている。

性格は 気さくで ノリが良い。が 同時に 気が強くで 負けず嫌いな面もある。本人は クールを装っているが すぐ顔に出るなど

直情的。

なので ポーカーなどのゲームは 激弱。

また 類い希な反射神経を持っているため 運動は 得意。女性陣の中では どちらかというと ツッコミ側である。

龍治が 仲の良い男4人で 馬鹿話をしている様子を見て 『バカルテット』と総称した。

——杵島 晃樹——
きしま けいじ

年齢 17

身長 176?

体重 67?

『地域支援部』活動初期メンバー。

『バカルテット』の構成員の1人で 龍治の良き理解者。

親友と呼べる存在である。高校一年の春 誰とも話をしようとしな
い龍治を見かねて 声をかけてきたのが 始まり。

龍治は ウザがったのだが 晃樹が その後 意地になって 話し
かけ続けたので 遂には 龍治の方が折れた。

それ以来は 気の合う友達として 連みだす。

性格は 社交的で ノリが良く 場の盛り上げ役。そのため 友人
が多く 常に 浅く広くという立場を崩さない。

ただ 自分が 気の許した相手とは 深く関わってゆく事を決めて
おり 少しでも様子がおかしいと手助けしようとする。

他の『バカルテット』構成員（主に 龍治）の事を親友と呼び

スキンシップが激しいため 女性メンバーから 『あっちの方』と
の疑いを受けている。

——^{なぎせ}薙瀬 めぐる——

年齢 16

身長 158?

体重 45?

スリーサイズ 80 / 55 / 79

『地域支援部』メインメンバーの1人。

元々は 龍治が通り魔に遭遇した町で住んでいた。

三年前 ある事情で 外を彷徨い歩いていた時 偶然 友人を助けようと奮戦する龍治を目撃する。以来 名前を知らないにも関わらず 『あの時の男の子』と 龍治に強い憧れのような感情を抱く。

高一になって 自分と同じ学校に龍治が通っていると知ったためぐりは すぐさま アプローチをかける。

以後は 龍治を『師匠』と呼び 何かと絡んでくるようになる。

性格は お調子者で 常にテンション高め。そのため 『支援部』では 良くイジられ 『イジられっ娘』の印象が強い。

また キャラが定まっておらず 「っすよ」や「っしやした」など語尾がコロコロ変わる。

人の心に敏感な資質があるが 本人は あえて気づかない振りをして 空気を読まないようにしている。

女性陣の中では 常に ボケキャラでもある。

—— 梶原 かしわら 修也 しゅうや ——

年齢 16

身長 170? (自称)

体重 58?

『地域支援部』メンバーで 龍治達に設立メンバーとして 無理矢理入部させられた漢。おかし

『バカルテット』の構成員の1人でもある。童顔である上 ヘタレであるにもかかわらず 間違った漢らしさをアピールして来ることがよくある。

また 義理ではあるが 妹がおり 極度のシスコンを露呈させている漢。その裏には 兄弟が欲しかったが 母親が 子宮ガンになり

全摘出の手術を受けざるおえなくなり 兄弟を諦めるしかなかったという事情がある。

妹に 格好いい自分をアピールしたいらしく 常に 先陣をきるが 元々 自身が弱者のため 瞬殺される。なので 日頃から 敗北者の印象が強い。

仲間内から 『生きた壁』という異名で 呼ばれるほどの。

性格は 常に強気で 目立ちたがりであり 転生のウザ体質。

更に 『バカルテット』の中で 一番頭が悪く アホ発言が目立つ。そして 異常なネーミングセンスを誇る。

そのセンスで 龍治と芹の同時ツツコミを『Xツツコミ』と銘した。

――とまき 屠時 ――すずな 鈴菜――

年齢 15

身長 148?

体重 38?

スリーサイズ 72 / 50 / 71

『地域支援部』メンバーで 事務処理担当。

龍治とは 同じ廃店街に住むジャンク屋の常連として 知った仲である。

幼い頃 ビル間の裏路地に座り込んでいたところを梶原夫妻（修也の両親）に拾われる。要するに 修也の義理の妹。

しかし 修也が必要以上に世話を焼いてくるため ウザがっついて発する言葉には 毒がある。現在は そんな修也の呪縛から逃れるためと 梶原夫妻に迷惑がかからぬよう別居している。

性格は 兄と違い 落ち着いていて 無愛想。

だが たまに 人の言葉を真に受けたりするため 素直な面も合わせ持っている。

一度 見聞きしたことは忘れられず 龍治達より 学年は 一つ下であるが 入学時から 学科免除されている天才児。

平日は 基本的に 家に閉じこもって ネットをしている。

そのため 龍治には 『ヒッキー』 呼ばわりされる（本人は 否定しているが）。

旧姓を名乗っているのは 「梶原家に迷惑をかけないように」と の鈴菜なりの配慮から。

—— 緋之宮 彩香 ——
つのみや さいか

年齢 18

身長 168?

体重 52?

スリーサイズ 91 / 60 / 89

『地域支援部』メンバーの1人。

龍治達とは 一年前 友人の伝手で知り合った。

龍治達より 1つ上であるが 一浪しているため 同学年である。

元々は 何でも普通以上にこなしてしまう 才女であった。

そのため 教師からも将来有望と太鼓判を押されていた。

しかし 高二に上がったのを気に 何故かテストをサボったり 授業中に教師を論破したりと奇行が目立つようになる。その時から

何かと因縁をつけられるようになり 教師の裏工作により 一浪が決まった（本人は 気にしていないようだが）。

性格は 察しがよく さり気なく気を利かせたり 相談にも乗って

くれる。

反面 自分の事は 話しながら 肝心な所で 話を反らしたりする機密主義な部分がある。

また 弁が立ち 直ぐに相手を言いくるのが得意。

さらに 無類の遊び人であり ギャンブル好きでもある。

メンバーをイジツたり（主に めぐる） ボケを被せたりするのが好き。

——辻田 つじた まさひろ 真彦——

年齢 18

身長 180?

体重 72?

『地域支援部』メンバーの1人で 『バカルテット』構成員最年長者。

龍治達より 年は1つ上だが 彩香同様 留年している。

最も 留年した理由は 成績不振という残念な男。

龍治とは 廃店街のジャンク屋に 買物にきた時に知り合う。

そこで 龍治と話が合い始め 学校でも連む様になる。

当時から仲の良かった 彩香を紹介したのも 真彦である。

前の同級から留年したのをネタにされる時があるが 本人は 「俺は 二度修学旅行に行ける男だ。」と 息巻いており あまり気にしていない。

性格は いい加減で 大ざっぱ メンバー内でも 率先してふざけようとする。

更に 好みの女性を見つけると すぐ口説き出す女好き。

しかし さり気なく 相手をサポートしたり 遠回しに気にかけた

り出来る 頼れる兄貴分でもある。

彩香と合わせて 『留年コンビ』と言われている。

——如月^{きさらぎ} 惠美葉^{えみは}——

年齢 22

身長 165?

体重 50?

スリーサイズ 87 / 59 / 88

龍治達の通う私立^{いっせん}煌縁高校のOGで 大学四年生であり 『地域支援部』 仮の顧問。

本来は 一年間 研修生兼用務員として 雇われているので 正式な教職員ではない（ 大学の方針で 一年間の実技演習期間中の身分）。

しかし 龍治達の部活発足の相談を受け 理事長の^{さんじま}冴島 初莉^{はつり}に問い合わせた所 「面白そうだから」という理由で そのまま 担当にさせられてしまった。

勿論 便宜上は 他に顧問がいて その補佐役という立場だ。

しかし 適当に埋め合わせただけなので 正顧問の方は 別の部活を担当しており 『地域支援部』には 全く顔を出せない（職員内でも 誰が 正顧問であるのか知らされていない状態）。

そのため 部活は 惠美葉が回していると言っている。大学生で 研修中という身分だが それなりの能力は保持しているため 支障はない。

性格は おつちよこちよいで 間抜け所が多々ある。

しかし 通っているのが一流大学で 成績も 常に トップ10入

りしている程 頭は良い。(本人曰わく 知識と実技は 別物らしい)。
学生気分丸出しの子供っぽい女性。

僕が　ここから見ているもの。

それは　あまりに　無情に消えゆくもの。

はたまた　それを踏み台にして　輝くもの。

何が　影に落ち　何が　輝くかは　決まっ
ていて　それらの思いが
永遠と流れてゆく。

まるで　雲の上から見下ろすように。

まるで　水面から見上げるように。

流れてゆくんだ。

多くの思いが　理不尽に砕けて　多く
の思いが　栄えていく。

何故　こんなにも　まばらなの
だろうか。

僕には　わからない。

きっと　誰にもわかり得ないの
だろう。

これが　この世界の　この町の　変え
ようのない理ことわりだとするのなら。

それでも　君は　描くつもりなの
だろうか。

哀しく 楽しい夢物語を。

――三年前――

そこは 街灯の明かりも薄暗く 無居住の多い 静かな住宅街。

「何なんだよ。お前。」

そこに 1人の少年の怒声が響く。少年の目の前には ナイフ片手に 目の血走った男が1人。

「り 龍治。た 助け て。」

少年の後ろには 怯えながら腰を抜かしている友人と思われる人物が 地べたに這いつくばっている。

（クソっ。厄日かよ。あのイカレ野郎。）

龍治と呼ばれた少年も 心なしか震えているようだ。友人の手前退くに退けないといったところなのだろう。

「僕の何がいけないんだ。どいつもこいつも バカにしゃがって。」

意味不明に 声を荒げるナイフの男。

「誰でもいいんだ。消えてくれよ。消えて・・・ハハハ。」

男は 情緒不安定のように 一度 叫んだかと思うと 肩をすく

男の動きに 瞬時に反応した龍治は 突き立てられたナイフが自分に 届く手前で 男の手首を握り 上へ持ち上げ 拘束する。

「クソっ クソっ クソお。」

手首が 拘束されジタバタする男。

「離せ。 離せよお。」

ドカツ ドカツ。

もがく男の蹴り 龍治の足や脇腹を抉る。

龍 「痛っ。」

徐々に 退く龍治。

死に物狂いになっている男の力は 信じられない程 強い。
このままでは 完全に 押し切られてしまう。

（まずいな。 どうする。）

ドカツ ドカツ。

男の蹴りの猛襲。

思考している間にも 龍治の頭に それが 痛みとして 流れ込んでくる。

耐え続ける龍治。
と その時。

「うわっ。」

フラッ。

急に 抑えつけている手が軽くなった。
男が 僅かに 後ろへと体制を崩した様であるか。
是好のチャンスだ。

（今だっ。）

「いい加減に しゃがれえ。」

龍治は ここぞとばかりに 重心を前に倒し もたついている男の
足を払う。

そのまま 前に倒し押さえ込むつもりだった。

そう 『だった』のだ。

だが 実際は・・・

グサッ

手にドロドロと伝わる生暖かい温もり。

男の服に滲む 真っ赤な液体。

胸に 突き立てられたナイフ。

鉄の錆びたような匂い。
友人の喧騒。

それらが 龍治の目を耳を五感の全てを 直撃した。

龍 「なんだよ。これ。こんな つもりじゃ・・・」

龍 「な なあ。」

友人向け 振り返る龍治。

「こ 殺した。殺した。」

尚も震えている友人。

しかし それは 通り魔に襲われたからではない。

その視線は 龍治を見ていた。

返り血に染まる龍治を だ。

「うわ うわああああ。」

四つん這いになり 一目散に 逃げ去る友人。

後に 残されたのは 龍治と もう 息をしていない通り魔の死体
だけ・・・

龍 「嘘だろ。おい 起きろって お前。寝たふりすんなよ。」

通り魔を見下ろし 呆然とその場に立ち尽くす 龍治。

龍 「何だよ。何だってんだよオオオオオ。」

その叫びは 虚しく空へと消えてゆくのだった・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9388z/>

Dear

2012年1月7日13時46分発行